

重層的支援体制整備事業を契機とした相談支援等の強化について

区では、重層的支援体制整備事業を契機として相談支援等の強化を図るため、すこやか福祉センターの基幹機能の強化をはじめ、機能及び組織の側面から検討を進めてきた。

このたび、区民にとってより身近な地域における相談支援体制の強化を図るため、次年度の区のアウトリーチチームの体制等について整理したので報告する。

1 次年度のアウトリーチチームの体制強化等について

(1) アウトリーチチームの体制強化

- 次年度のアウトリーチチームについては、今年度同様に区民活動センター圏域ごとに設置(15チーム)する。そして、体制強化を図るため、新たにチームリーダーを配置し、現行の各チーム5人体制から6人体制へと拡大する。
- 各アウトリーチチームは、チームリーダーを中心に、すこやか地域ケア会議及び地域ケア個別会議の運営、地区の事例の蓄積・分析、優良事例や課題の洗い出し、事後の検証、そして他のチームとの共有や人材育成などを行う。
- また、区民活動センター職員は地域づくり(団体支援)の視点から、すこやか福祉センター職員は包括的な相談支援(個人支援)の視点から、ケースワークや課題解決に向けた方策を考察し、チーム内で共有・議論しながらチームの対応力向上を図っていく。
- 一方、支援が必要な人・家族からの相談や区民等からの安否確認等の通報については、チームリーダーを中心に、区民活動センター職員及びすこやか福祉センター保健師・福祉職を含め、適宜役割を確認し、安否確認、サービス・社会資源への接続、そして伴走的な支援を提供していく。
- こうした体制を整え、支援が必要な人への相談については、地域の身近な施設である区民活動センターやすこやか福祉センターの双方にて対応していく。また、相談の間口を広げ、あらゆる機会を捉え、支援が必要な人を支援につなげていくとともに、より専門的な相談支援についてはすこやか福祉センターの専門職を中心に、多様な関係機関と連携を図り対応していく。

(2) アウトリーチチームの機能強化

上記(1)のアウトリーチチームの体制強化に加え、次の3つを柱として機能強化に向け注力していく。また、目標と成果を意識し、対応の検証や事例検討を通じて、常に改善とスパイラルアップを繰り返し、より質の高い区民サービスへとつなげていく。

***体制及び機能強化により支援及び支えていく人・世帯**

これまでアウトリーチチームの活動により支援につなげてきた人に加え、体制及び機能強化により次の人・世帯にも注力していく。

- 支援が必要なものの自らSOSを発信できない人・世帯
- 高齢者、子ども・子育て家庭、障害者、生活困窮などの一つの領域でのサービスや制度だけでは、抱える課題の解決に結びつくことが難しい人・世帯
- 公的なサービスの受給には至らないものの、生活課題を抱えるなど、何らかの支援が必要な人・世帯

柱	注力する点
発見	<p>*身近な地域での相談をはじめ、あらゆる機会を捉え相談支援につなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区民活動センターやすこやか福祉センターをはじめ区や関係機関の各窓口など、あらゆる機会を支援が必要な人・世帯を見つける機会として捉え、相談支援につなぐ。 ○支援が必要な人を地域で見つける基盤の整備(地域とともに考え、不足する資源、地域が必要とする資源の開発・誘導)
相談支援	<p>*区民にとって満足度の高い相談支援 (=断らない相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例の積み上げと共有、今後の対応の質の向上に向けて、アウトリーチチーム内における事例検討の機会を整える。また、全区域のチームのレベル向上と質を確保するため、事例の集約と共有の機会を整える。 ○職員一人ひとりの相談支援における姿勢、スキル及び知識の向上を図るとともに、地域における相談、気に掛け合う関係など地域づくりを進める。
伴走型支援	<p>*本人が望む支援をコーディネートし、つなぎ、つなぎ直し続けることで、より本人が希望する生活に近づけていくための支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な支援体制を整えていくために、アウトリーチチームが中心となり地域における多機関協働の支援体制を整えていく。 ○地域における多様な社会資源を伴走型支援という視点から捉え直し、整理・位置づけていく。

2 職員の育成

体制及び機能の強化に向けては、計画的な人材の育成が求められる。令和4年度については、部内職員向けに支援研修を実施しているところであるが、次年度以降も、すこやか福祉センターの基幹機能の強化とあわせ、計画的な育成に向けて、人材育成プログラム等を作成しながら研修と現場経験を通じ、職員の育成に取り組んでいく。

アウトリーチチームの体制図

